

2023 年度 駒沢女子大学

「学修到達度の確認」実施報告書

2 年終了時確認報告書

教育指針に関する検討委員会

2023年度 2年終了時「学修到達度の確認」の報告書

1. 実施人数／対象者数

実施人数	対象者数	回答率
15名	20名	75%

2. 集計結果

教育目標	学修指針	レベル4		レベル3		レベル2		レベル1		平均値
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	
DP1	教養力	2	13.3%	6	40.0%	7	46.7%	0	0%	2.67
	人間性	1	6.7%	11	73.3%	2	13.3%	1	6.7%	2.80
DP2	コミュニケーション力	4	26.7%	3	20.0%	5	33.3%	3	20.0%	2.53
	社会性	3	20.0%	3	20.0%	8	53.3%	1	6.7%	2.53
DP3	専門力	2	13.3%	4	26.7%	7	46.7%	2	13.3%	2.40
	判断力	1	6.7%	4	26.7%	7	46.7%	3	20.0%	2.20
DP4	技術力	2	13.3%	3	20.0%	6	40.0%	4	26.7%	2.20
	実践力	2	14.3%	4	28.6%	7	50.0%	1	7.1%	2.50

3. 検証結果

〔現状説明〕 10行程度で集計結果についての分析を完結に説明してください。

4年終了時の場合は、2年終了時と比較した学習指針などを具体的に説明してください。

また、DP達成に向けCP、APの適切性についても記載ください。

参考：全体平均 2.46 高評価：教養力 (2.67) 人間性 (2.8) 低評価：判断力 (2.2) 技術力 (2.2)

- 教養力の平均が2.67、人間性の平均が2.80と比較的高い数値となっている。CPに定める教育方法の「主体性を育むためにアクティブラーニング」を行っている成果が出ていると考えられる。
- 判断力の平均が2.20と低い数値となっている。DP達成に向けて、「諸問題に対する的確な判断力」の育成をするものとなっているか、CPの検証も必要である。
- 技術力の平均が2.20と低い数値となっている。CPの教育内容において「自ら考え発信する実践力を身につけることを目標にカリキュラムを作成」していると明記しており、それに向けた取り組みは行っているが、今後さらなるカリキュラムの検証、授業運営の改善が必要である。
- 昨年度の2年終了時における「学修到達度の確認」と比べると、コミュニケーション力が2.2→2.53と優位に上昇しており、指導改善の成果が表れたものとする。

4. 長所・特色

<p>有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。</p>	
学修指針	長所・特色
教養力・人間性	「日本の文化と歴史Ⅰ・Ⅱ」の科目において、成果集『年中行事から考える日本の文化』・『祭りから考える日本の文化』を刊行した。調査・考察、および小論文の執筆を通じて、学生の自己評価が向上したものとする。
コミュニケーション力	「日本の文化と歴史Ⅰ・Ⅱ」、「日本語表現Ⅰ・Ⅱ」の科目における、口頭発表、成果集の執筆という課題を通じて、口頭・文章表現の双方におけるコミュニケーション力について、学生の自己評価が向上したものとする。

5. 今後の課題（問題点）

<p>教育目的を実現する上での課題、学修指針に関する課題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。なお、「学修到達度の確認」の実施及び運用方法についてのご意見は、「学修指針欄」に「実施及び運用方法について」と記載の上、記述してください。</p>	
学修指針	課題・問題点
社会性	レベル 2.1 を足した割合が 60% を超えおり、下記と並び自己評価の低い領域である。近代以前の歴史や文学に興味を懐く学生が多いためか、現代社会が直面する諸問題に対して関心が希薄であるように思われる。歴史や文学を学ぶなかにも「現代的な視座」が養えるような工夫が求められる。
判断力・技術力	レベル 2.1 を足した割合がともに 65% を超え、上記「社会性」と並んで自己評価の低い領域である。「問題点」や「矛盾点」を見出すことへの低い自己評価は、平生より書物やインターネットなどを通して得る知識・情報に対して無批判かつ無分析に肯うことが一因としてであると推測される。

6. 課題・問題点に対する改善策

<p>「5. 今後の課題（問題点）」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画（既に実施している場合はその進捗状況も含めて）を記述してください。</p>	
学修指針	改善策
判断力・技術力	知識・情報に対する「矛盾点」「問題点」の指摘（判断力）、比較・分析（技術力）が低評価であったことを鑑み、3年次以降の専門ゼミの研究発表では、自分の考え（見解）を自在に発表するだけでなく、他者の考え（見解）に対する自らが気づき（矛盾点・問題点）を深める機会（時間）を積極的に増やしていく必要がある。また、多種多様な日本文化を比較・分析し、より重層的に考察できるように、専門ゼミを横断した学修環境を必要に応じて設けていきたい。

2023年度 2年終了時「学修到達度の確認」の報告書

1. 実施人数／対象者数

実施人数	対象者数	回答率
52名	68名	76%

2. 集計結果

教育目標	学修指針	レベル4		レベル3		レベル2		レベル1		平均値
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	
DP1	教養力	4	8%	23	44%	20	38%	5	10%	2.5
	人間性	9	17%	32	62%	9	17%	2	4%	2.9
DP2	コミュニケーション力	7	13%	31	60%	10	19%	4	8%	2.8
	社会性	9	17%	32	62%	6	12%	5	10%	2.9
DP3	専門力	5	10%	21	40%	18	35%	8	15%	2.4
	判断力	8	15%	26	50%	12	23%	6	12%	2.7
DP4	技術力	4	8%	19	37%	20	38%	9	17%	2.3
	実践力	5	10%	26	50%	15	29%	6	12%	2.6

3. 検証結果

〔現状説明〕 10行程度で集計結果についての分析を完結に説明してください。

4年終了時の場合は、2年終了時と比較した学習指針などを具体的に説明してください。

また、DP達成に向けCP、APの適切性についても記載ください。

学修指針に示される8つの能力のうち「身についた」(lv.2)以上を選択した者が9割を超えたのは「教養力」「人間性」「コミュニケーション力」「社会性」、8割を超えたのは「専門力」「判断力」「技術力」「実践力」である。全ての項目で8割以上の学生が「身についた」以上の回答をしていることから、2年生終了時点では専攻の目指す学修目標は概ね達成したといえる。したがってこのDP達成にCP、APは適切に寄与したと考えられる。より高水準でDPを達成しているかを検証するため、「非常に身についた」(lv.4)と「かなり身についた」(lv.3)の選択率のみに注目すると、得点の高い順に「人間性」「社会性」(約8割)、「コミュニケーション力」「判断力」(約7割)、「実践力」(約6割)、「教養力」「専門力」(約5割)、「技術力」(約4割)となった。本調査時点で「専門力」「技術力」が低く評価された理由として、専門科目の履修が2年次以降に、専門ゼミへの所属が3年次以降であることが考えられたため、同項目得点は進級に伴う上昇が期待される。一方、CPで2年時に履修可能な科目の大半が目指す「教養力」の学修について、高水準の評価が少ないことは課題であろう。

4. 長所・特色

<p>有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。</p>	
学修指針	長所・特色
人間性	<p>学生が多様な考えに触れることを意図し、一つのトピックに対して専門の異なる教員が一堂に会して意見を述べる機会が必修科目にて多く設定されている（例 人間関係の基礎）。このことが「自立した思考の必要性を理解し、自分自身の価値観を構築しようと努力」する「人間性」の醸成に有効であったと考える。</p>
社会性	<p>グループワークを取り入れた科目や、講義型の科目でも授業内に発言させる科目の多さが、自由記述にもあるように学生間の協力関係構築に役立ち、同指針が高い水準で達成されたと考えられる。</p>

5. 今後の課題（問題点）

<p>教育目的を実現する上での課題、学修指針に関する問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。なお、「学修到達度の確認」の実施及び運用方法についてのご意見は、「学修指針欄」に「実施及び運用方法について」と記載の上、記述してください。</p>	
学修指針	課題・問題点
教養力・専門力・技術力	<p>これらの指針が高水準で達成されるべく目指される内容に共通する点は、単に知識を取り込むだけでなく、それを自分で高めたりそのための方法を知ったりすること、また知識を日常生活に活かすことであるとされる。すなわち、得た知識を伸ばす、活かすといった応用の視点である。自由記述をふまえると、通学する/単位を修得する/授業内でのコミュニケーションなどに各々励む様子が見受けられるも、いずれも与えられたことをこなすという受動的な学びや、教室内で学びが止まっている可能性が考えられた。これらの指針の高水準での達成を目指すには、知識を自らで高める、生活に活かすといったより能動的な学びが必要となる。</p>

6. 課題・問題点に対する改善策

<p>「5. 今後の課題（問題点）」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画（既に実施している場合はその進捗状況も含めて）を記述してください。</p>	
学修指針	改善策
教養力・専門力・技術力	<p>まずは教室内で、教員が知識を応用する方法や日常生活で知識が活かされた事例を伝えることが一つである。また、授業内で学生に知識を生活に活かすための工夫や例を考えさせるなど、より学生の興味関心を教室外まで広げる工夫が求められる。これらは低学年の授業でも行える工夫である。</p>

2023年度 2年終了時「学修到達度の確認」の報告書

1. 実施人数／対象者数

実施人数	対象者数	回答率
21 名	21 名	100%

2. 集計結果

教育目標	学修指針	レベル4		レベル3		レベル2		レベル1		平均値
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	
DP1	教養力	0	0%	6	28.6%	11	52.4%	4	19%	2.1
	人間性	4	19%	10	47.6%	5	23.8%	2	9.5%	2.8
DP2	コミュニケーション力	0	0%	9	42.9%	9	42.9%	3	14.3%	2.3
	社会性	0	0%	12	57.1%	6	28.6%	3	14.3%	2.4
DP3	専門力	0	0%	6	28.6%	10	47.6%	5	23.8%	2.0
	判断力	0	0%	9	42.9%	8	38.1%	4	19%	2.2
DP4	技術力	0	0%	6	28.6%	9	42.9%	6	28.6%	2.0
	実践力	0	0%	10	47.6%	8	38.1%	3	14.3%	2.3

3. 検証結果

<p>〔現状説明〕 10 行程度で集計結果についての分析を完結に説明してください。 4 年終了時の場合は、2 年終了時と比較した学習指針などを具体的に説明してください。 また、DP 達成に向け CP、AP の適切性についても記載ください。</p>
<p>3 年生になったばかりの時期であるため、全体的にレベル4 に到達していないという回答が多い。ただし、3 年終了時はレベル2 が到達目標であると考え、すべての項目において平均 2.0 を超えているので、順調な学修状況ではないかと考えられる。</p> <p>その中では、(2) の人間性は他に比して全体的に高い数値を示している。人間性は「多様な価値観をどれくらい受け入れられますか?」という問いであることを考えると、対象となった学生たちは多様な価値観に対して受容的な考え方をしていることが推察される。</p> <p>レベル4 には達していないものの、比較的高い数値の項目としては、(4) 社会性が平均値 2.4、(3) コミュニケーション力と (8) 実践力が平均値 2.3 である。「社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感をどれくらい持っていますか?」と問いかけて社会性、「社会人にふさわしい教養・語学力・表現力をどれくらい持っていますか?」と問いかけたコミュニケーション力、「学んだ専門的知識をどれくらい社会に還元することができます</p>

か？」と問いかけた実践力は、いずれも社会との関わりが深い項目である。そういう観点から判断すると、社会において自分がどれだけ貢献できるのかをきちんと考えている学生が多いことが考えられる。残りの2年間での成長を支えていきたいと考えている。

4. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。

学修指針	長所・特色
人間性	「多様な価値観をどれくらい受け入れられますか？」という問いに対して非常に高いレベルを示している。多様性が叫ばれる時代にあって、そのことを授業等で学ぶ機会もあり、適切に対応できる力が身につけているものと思われる。
社会性	「社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感をどれくらい持っていますか？」という問いに対して高いレベルを示している。社会における責任や使命感というものを意識できる社会性が身についたものと判断する。

5. 今後の課題（問題点）

教育目的を実現する上での課題、学修指針に関する問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。なお、「学修到達度の確認」の実施及び運用方法についてのご意見は、「学修指針欄」に「実施及び運用方法について」と記載の上、記述してください。

学修指針	課題・問題点
技術力	「世界の言語(英語)・社会・文化等に関する専門的な知識をどれくらい応用できますか？」という問いに対するレベルが若干低いように思われる。
専門力	「世界の言語(英語)・社会・文化等に関する専門的な知識をどれくらい持っていますか？」という問いに対するレベルが若干低いように思われる。

6. 課題・問題点に対する改善策

「5. 今後の課題（問題点）」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画（既に実施している場合はその進捗状況も含めて）を記述してください。

学修指針	改善策
技術力 / 専門力	<p>専門知識という意味では、英語力や資格の有無も関係するものと思われる。TOEIC や英検を積極的に受験し、確実に力を伸ばしたり、資格を取得してさせたいと考える。今後、学生に対して自ら目標を設定し、それを実現していくよう指導することが肝要と思われる。</p> <p>一方、授業を通じて英語力が伸びていることを実感しているという記述が多く見られるので、今後も専門性の高い授業を行なっていくことが重要であると考えます。</p>

2023年度 2年終了時「学修到達度の確認」の報告書

1. 実施人数／対象者数

実施人数	対象者数	回答率
30名	30名	100%

2. 集計結果

教育目標	学修指針	レベル3		レベル2		レベル1		平均値
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	
DP1	教養力	4	13.3%	20	66.7%	6	20%	1.93
	人間性	12	40%	14	46.7%	4	13.3%	2.26
DP2	コミュニケーション力	8	26.7%	19	63.3%	3	10%	2.16
	社会性	8	26.7%	17	56.7%	5	16.6%	2.10
DP3	専門力	5	16.7%	16	53.3%	9	30%	1.86
	判断力	2	6.7%	24	80%	4	13.3%	1.93
DP4	技術力	2	6.7%	18	60%	10	33.3%	1.73
	実践力	2	6.7%	22	73.3%	6	20%	1.86

3. 検証結果

〔現状説明〕 10行程度で集計結果についての分析を完結に説明してください。

4年終了時の場合は、2年終了時と比較した学修指針などを具体的に説明してください。

また、DP達成に向けCP、APの適切性についても記載ください。

本年度の「学習到達度の確認」に係るアンケート調査においては、3段階評価の内、各項目ともに多くの学生が「ある程度到達している」という自己評価が確認された。特にDP1b人間性、DP1aコミュニケーション力、DP2b社会性に関しては全体の8割を超える学生が「ある程度到達している」以上の高い到達の自覚を示している。これに対し、DP3a専門力、DP4a技術力、DP4b実践力に対する学生の自己評価はやや低い傾向にあった。観光文化学類では2年次から本格的に専門科目の履修が開始されることがその一因として考えられるが、今後履修する専門科目により、DP3a専門力の向上を図ることは十分に考えられる。DP4a技術力とDP4b実践力に関しては、3年次以降の専門ゼミでの対策・取り組みに加え、都内研修や企業と連携したインターンシップ実習を通して「プレゼンテーション力やレポート作成」に関する技術力を伸ばし、有志学生によるツーリズムコマジョの取組等といった大学外の社会で学ぶ活動を通して学生の「実践知」の向上に繋がるプログラムを引き続き充実させていきたい。

4. 長所・特色

<p>有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。</p>	
学修指針	長所・特色
人間性	<p>DP1b 人間性「多様な価値観を受け入れ、ホスピタリティ精神を創造的に実現することができる」は全調査項目の中でも、「到達している」を選んだ回答「12名」が多く確認された。2年次全員対象の都内研修の実施を含め、インターンシップ実習におけるホスピタリティに関する事前講義または多様な企業と連携して実施された実務体験のプログラム（観光文化入門等）を通して、学生が実際の産業界における多様な取り組みや価値観に触れる機会を得られたことにより、高い自己評価の結果に繋がったと考えられる。</p>
コミュニケーション力・社会性	<p>上記項目に続いて、DP1a コミュニケーション力、DP2b 社会性は「ある程度達成している」以上の自己評価回答が8割超えの結果となっており、上記研修・実習プログラムでの学修効果に加え、例年多くの2・3年次学生が参加する正課外活動「ツーリズムコマジョ」での体験も当該項目の高評価に貢献していると考えられる。産学連携の目的で実施する「ツーリズムコマジョ」では、学生が主体となって調査活動を実施し、実際の社会課題の把握とその対策を学習・実践することにより、学生の社会に対する関心を含む社会的使命感や責任感の向上にも繋がると考えられる。</p>

5. 今後の課題（問題点）

<p>教育目的を実現する上での課題、学修指針に関する問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。なお、「学修到達度の確認」の実施及び運用方法についてのご意見は、「学修指針欄」に「実施及び運用方法について」と記載の上、記述してください。</p>	
学修指針	課題・問題点
専門力・技術力	<p>DPの8項目のうち、「まだ到達していない」の回答が得られた項目としてはDP3a 専門力（9名）とDP4a 技術力（10名）が確認された。特に「まだ到達していない」を選んだ学生の半数近くは他の項目でも同様の回答を選んでいる傾向にあり、その中では検定・資格の未受験・未取得の学生やその悩み相談に関するコメントも発見され、同学年の中での「学習到達度」に関する差の拡大が懸念される。</p>
実施及び運用方法	<p>例年同様に、各調査項目に関する自己評価のレベル毎の明確な基準の関する設定が課題として残っており、学生に分かりやすい基準（例えば、取得・合格済み外部試験・資格の数や学内関連履修科目の成績評価による点数設定）の工夫が引き続き、求められる。さらに、DP項目毎の自己評価の根拠に関連性の高い自由執筆項目では、不正確な回答や未記入のケースも多数あり、一定の文字数の指定や事前の趣旨説明の改善等を検討したい。</p>

6. 課題・問題点に対する改善策

「5. 今後の課題（問題点）」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画（既の実施している場合はその進捗状況も含めて）を記述してください。

学修指針	改善策
専門力・技術力	3年次以降の専門ゼミでの指導を通して当該項目に関する能力及び「学習到達度」に関する自己認識の向上をはかるとともに、個別の進路設計や悩みに応じて、個別面談の実施や学内リソースの活用（学習支援センターや進路総合センターとの連携）を強化していく方針である。

7. 自己評価コメントまとめ

自己評価の自由執筆欄の項目からは、基礎ゼミを含む必修科目から観光産業に関わる基礎知識をはじめ、観光分野の特色であるホスピタリティ、コミュニケーション力が身についたという自己評価が多数確認された。さらに、インターンシップ実習に対する高評価も発見され、事前講義や受け入れ先での実習を通して、社会人として相応しい教養・マナーやコミュニケーション力の向上に繋がったという言及も多く見られた。一方、自己評価の基準値がやや低い DP3 と DP4 項目における専門性や技術力に対する苦手意識の言及も発見されるが、今後の対策として関連資格検定・試験の受験や専門ゼミでの指導を通して改善・強化させたいという考えを述べる学生も多かった。

資格試験・外部試験受験状況については、下記の表 1 でと取りまとめた。

得られた回答結果としては、例年受験者の多い世界遺産検定をはじめ、実用英語技能検定や TOEIC 等の語学系試験の受験者・合格者が中心となっており、旅行業取扱管理者を含む実務関連の検定・試験の受験者または希望者が減少している結果が確認された。今後の対策としては、学修支援センターとの連携のもと、補修を含む特別講義や学内での受験可能検定・試験の種類・回数の増加を図るとともに、担任教員、専門ゼミや専門科目の授業において情報提供を強化し、より多くの学生の資格取得に繋げたい。

表 1 各検定・試験の受験者数・合格者数とその内訳

検定の種類	受験（名）	合格（名）	内訳
秘書検定	3	2	2 級 1 名、3 級 1 名
ニュース時事能力検定	1	1	3 級 1 名
実用英語技能検定	13	12	準 1 級 1 名、2 級 7 名、準 2 級 2 名、3 級 1 名
観光英語検定	2	1	3 級 1 名
日本語検定	2	2	準 2 級 1 名、3 級 1 名
日本語能力検定	1		
漢字検定	9	6	2 級 2 名、準 2 級 1 名、3 級 1 名、5 級 2 名
世界遺産検定	11	7	2 級 2 名、3 級 5 名
サービス接遇検定	2	1	3 級 1 名
アンティーク検定	1		
MOS 検定	3	1	
TOEIC	6		
TOEFL	2		
旅程管理研修（添乗員資格）	2	1	
該当なし	14		（受験なし 10 名、取得資格なし 4 名）
その他	2	2	

今後卒業までに受験予定に関する情報として下記の回答が得られた。

サービス接遇検定 3 名

世界遺産検定 5 名

国内旅行業業務取扱管理者 5 名

旅行地理 1 名

秘書検定 8 名

観光英語 3 名

TOEIC 9 名

日本語能力検定 1 名

韓国語能力検定 2 名

MOS 検定 2 名

ファイナンシャル・プランニング検定 1 名

ホテルビジネス実務検定 1 名

ビジネスマナー検定 1 名

日商 PC 検定 2 名

登録販売者 1名

簿記検定 1名

受験予定なし 4名

さらに、2年次終了時点において、検定・資格未受験・未取得の学生が10名と今後受験予定なし（検討中を含む）4名にた。学生が希望する業種・職種に応じた資格取得を、個別面談やゼミでの指導などを通して助言していく必要がある。

2023年度 2年終了時「学修到達度の確認」の報告書

1. 実施人数／対象者数

実施人数	対象者数	回答率
84名	90名	93.3%

2. 集計結果

教育目標	学修指針	レベル4		レベル3		レベル2		レベル1		平均値
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	
DP1	教養力	2	2.4%	25	29.8%	43	51.2%	14	16.7%	2.18
	人間性	3	3.6%	33	39.3%	42	50.0%	6	7.1%	2.39
DP2	コミュニケーション力	3	3.6%	29	34.5%	32	38.1%	20	23.8%	2.18
	社会性	1	1.2%	29	34.5%	42	50.0%	12	14.3%	2.23
DP3	専門力	1	1.2%	10	11.9%	49	58.3%	24	28.6%	1.86
	判断力	2	2.4%	15	17.9%	51	60.7%	16	19.0%	2.04
DP4	技術力	1	1.2%	22	26.2%	44	52.4%	17	20.2%	2.08
	実践力	0	0.0%	17	20.2%	35	41.7%	32	38.1%	1.82

3. 検証結果

〔現状説明〕 10行程度で集計結果についての分析を完結に説明してください。

4年終了時の場合は、2年終了時と比較した学習指針などを具体的に説明してください。

また、DP達成に向けCP、APの適切性についても記載ください。

- ・ DP1・2は、平均値が2年次終了時に目指される基準（レベル2）を超えており、学生が概ね適切な学修プロセスに沿って学んでいることがうかがえる。
- ・ DP3・4は、平均値が2年次終了時に目指される基準（レベル2）を下回っている。ただし、最も多く報告されたレベルは2であり、平均値2.0を下回った「専門力」及び「実践力」は専門ゼミをはじめとして3年次以降のカリキュラムにおいて特に意識されるものであるため、不適切な学修プロセスを表すものとは言えない。
- ・ 回答率の高さと自己評価コメント（代表例は次頁）からは、学生たちの学びの姿勢がきわめて意欲的であることがうかがえ、自己評価得点がレベル2に集中している点は向上心の表れであるとも解釈できる。
- ・ 以上の分析からは、CP・APともにDP達成に適切であること、3・4年次は特に心理学の知を用いる専門的姿勢（DP3）とそれを活用する実践力（DP4）の育成が目指されること、そして学生の意欲的な姿勢を尊重する学びの提供が重要であることを指摘することができる。

4. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。

学修指針	長所・特色
DP1の「人間性」及びDP2の「社会性」が特に高い	本学の学びは他者と協働する基本姿勢を身につける上で特に寄与していると考えられる。講義だけでなくグループでの取り組みが多いことがその理由の一つと言えるかもしれない。

5. 今後の課題（問題点）

教育目的を実現する上での課題、学修指針に関する問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。なお、「学修到達度の確認」の実施及び運用方法についてのご意見は、「学修指針欄」に「実施及び運用方法について」と記載の上、記述してください。

学修指針	課題・問題点
	なし

6. 課題・問題点に対する改善策

「5. 今後の課題（問題点）」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画（既に行っている場合はその進捗状況も含めて）を記述してください。

学修指針	改善策
	なし

2023年度 2年終了時「学修到達度の確認」の報告書

1. 実施人数／対象者数

実施人数	対象者数	回答率
77名	81名	95.1%

2. 集計結果

教育目標	学修指針	レベル4		レベル3		レベル2		レベル1		平均値
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	
DP1	教養力	2	2.6%	40	51.9%	29	37.7%	6	7.8%	2.49
	人間性	8	10.4%	43	55.8%	21	27.3%	5	6.5%	2.70
DP2	コミュニケーション力	4	5.2%	32	41.6%	31	40.3%	10	13.0%	2.39
	社会性	10	13.0%	36	46.8%	23	29.9%	8	10.4%	2.62
DP3	専門力	2	2.6%	36	46.8%	32	41.6%	7	9.1%	2.43
	判断力	2	2.6%	30	39.0%	38	49.4%	7	9.1%	2.35
DP4	技術力	3	3.9%	25	32.5%	41	53.2%	8	10.4%	2.30
	実践力	5	6.5%	35	45.5%	31	40.3%	6	7.8%	2.51

3. 検証結果

〔現状説明〕 10行程度で集計結果についての分析を完結に説明してください。

4年終了時の場合は、2年終了時と比較した学習指針などを具体的に説明してください。

また、DP達成に向けCP、APの適切性についても記載ください。

- (1) 8項目の中で高い平均値は「人間性」と「社会性」であり、2022年度2年修了時も同じ順位である。
- (2) 8項目の中で低い平均値は、2022年度2年修了時と順位は交代したが「技術力」と「判断力」である。
- (3) 2022年度2年修了時と比較すると「人間性」「コミュニケーション力」以外の平均値は上昇している。
- (4) 「人間性」「コミュニケーション力」は2022年度2年修了時の平均値からともに0.03ポイント減少した。
- (5) 「人間性」はレベル3・4の回答が約6割以上(66.2%)を占めており、8項目中最も高い。
- (6) 「技術力」はレベル1・2の回答が約6割以上(63.6%)を占めており、8項目中最も低い。
- (7) レベル1の回答が最も多いのは「コミュニケーション力」で、約13%の学生が回答した。
- (8) レベル1の回答が2番目に多いのは「社会性」と「技術力」で、約10%の学生が回答した。
- (9) レベル4の回答が最も多いのは「社会性」で約13%の学生が回答し、2022年度から6pt上昇した。
- (10) レベル4の回答が2番目に多いのは「人間性」で約10%の学生が回答し、2022年度から2pt上昇した。

4. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。	
学修指針	長所・特色
判断力・実践力	対象学生が1年次の2022年度からコロナ禍が徐々に緩和されたことで、実際の建物や空間を見学・体験して学ぶ機会を取り戻せたことが、「判断力」(2.23→2.35)や「実践力」(2.42→2.51)の平均値向上に繋がった。

5. 今後の課題（問題点）

教育目的を実現する上での課題、学修指針に関する問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。なお、「学修到達度の確認」の実施及び運用方法についてのご意見は、「学修指針欄」に「実施及び運用方法について」と記載の上、記述してください。	
学修指針	課題・問題点
コミュニケーション力	2022年度の平均値から微減した。コロナ禍が解消された中で、依然として1・2年次における教員や学生同士と対面でのグループワーク等の意思疎通の機会が減少したことが考えられる。
実施及び運用方法について	比較的成績の良い学生ほど控えめな評価を行い、その逆の現象もみられる傾向がある。客観性の高い自己評価を得るための対策が必要と思われる。

6. 課題・問題点に対する改善策

「5. 今後の課題（問題点）」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画（既に実施している場合はその進捗状況も含めて）を記述してください。	
学修指針	改善策
コミュニケーション力	グループワークなど少人数で個人発表やディスカッションの機会をより一層増やすなど対策の必要性を教員間で共有し、実施する。
実施及び運用方法について	4年次の学修到達度の確認実施において、2年次の回答内容を参照させる方法を検討することで、自身の到達度を客観的に振り返り、適正な評価に繋げることを試みる。

2023年度 2年終了時「学修到達度の確認」の報告書

1. 実施人数／対象者数

実施人数	対象者数	回答率
54名	88名	61%

2. 集計結果

教育目標	学修指針	レベル4		レベル3		レベル2		レベル1		平均値
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	
DP1	教養力	54	1.9%	54	48.1%	54	38.9%	54	11.1%	2.4
	人間性	54	14.8%	54	55.6%	54	22.2%	54	7.4%	2.8
DP2	コミュニケーション力	54	18.5%	54	57.4%	54	22.2%	54	1.9%	2.9
	社会性	54	16.7%	54	50.0%	54	27.8%	54	5.6%	2.8
DP3	専門力	54	0%	54	51.9%	54	37.0%	54	11.1%	2.4
	判断力	54	5.6%	54	37.0%	54	48.1%	54	9.3%	2.4
DP4	技術力	54	1.9%	54	46.3%	54	44.4%	54	7.4%	2.4
	実践力	54	11.1%	54	31.5%	54	46.3%	54	11.1%	2.4

3. 検証結果

〔現状説明〕 10行程度で集計結果についての分析を完結に説明してください。

4年終了時の場合は、2年終了時と比較した学習指針などを具体的に説明してください。

また、DP達成に向けCP、APの適切性についても記載ください。

(1) 学修指針の各項目とも、平均は2.4点以上であった。

(2) 教育目標DP1(人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成)の「人間性」、DP2(栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成)の「コミュニケーション力」、「社会性」は、平均がそれぞれ2.8点、2.9点、2.8点と3点近くあり、他の教育目標よりも高かった。栄養士・管理栄養士は対人関係をうまく保つことが重要であり、これらの項目の学修到達度が高かったことは、DP達成に向けてのCP、APが適切であったと考えられた。

4. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。	
学修指針	長所・特色
人間性	栄養士・管理栄養士としての社会的責務を果たすことができるようにカリキュラムをしているが、特に、心理学を必修としていることが、「人間性」の向上に効果を示していると考えられた。
コミュニケーション力、社会性	社会人に求められる幅広い教養とコミュニケーション力を養うために、上記の心理学の他、基礎ゼミや各実習での発表、ディスカッションが「コミュニケーション力」や「社会性」の向上に役立っていると考えられた。

5. 今後の課題（問題点）

教育目的を実現する上での課題、学修指針に関する問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。なお、「学修到達度の確認」の実施及び運用方法についてのご意見は、「学修指針欄」に「実施及び運用方法について」と記載の上、記述してください。	
学修指針	課題・問題点
実施方法について	学修到達度の確認の実施をメールで周知し、回答を Google フォームで行ったが、回答率が 61%であった。学生自身に自分の到達度を確認させ、3 年生以降の課題を自ら再認識させるためにも、回答率をさらに上げる必要があった。

6. 課題・問題点に対する改善策

「5. 今後の課題（問題点）」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画（既に実施している場合はその進捗状況も含めて）を記述してください。	
学修指針	改善策
実施方法について	学修到達度の確認の実施をメールで周知し、回答を Google フォームで行ったが、周知が不十分であった。実施時期を早めてオリエンテーションの時に教室で行うなど、方法を改める必要があると考えられた。

2023年度 2年終了時「学修到達度の確認」の報告書

1. 実施人数／対象者数

実施人数	対象者数	回答率
70名	78名	89.7%

2. 集計結果

教育目標	学修指針	レベル4		レベル3		レベル2		レベル1		平均値
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	
DP1	教養力	7	10.0%	38	54.3%	19	27.1%	6	8.6%	2.66
	人間性	20	28.6%	33	47.1%	14	20.0%	3	4.3%	3.00
DP2	コミュニケーション力	19	27.1%	37	52.9%	10	14.3%	4	5.7%	3.01
	社会性	15	21.4%	35	50.0%	17	24.3%	3	4.3%	2.89
DP3	専門力	9	12.9%	33	47.1%	21	30.0%	7	10.0%	2.63
	判断力	5	7.1%	33	47.1%	26	37.1%	6	8.6%	2.53
DP4	技術力	5	7.1%	37	52.9%	23	32.9%	5	7.1%	2.60
	実践力	5	7.1%	35	50.0%	24	34.3%	6	8.6%	2.56

3. 検証結果

〔現状説明〕 10行程度で集計結果についての分析を完結に説明してください。

4年終了時の場合は、2年終了時と比較した学修指針などを具体的に説明してください。

また、DP達成に向けCP、APの適切性についても記載ください。

平均値が3.0以上となっていたのは「人間性」「コミュニケーション力」の2項目であり、続いて「社会性」が2.89、「教養力」が2.66であった。DP1とDP2は順調に達成に向けて学修が進んでいるものと考えられる。

看護学科のカリキュラムは、1・2年次において教養教育科目および専門基礎科目が大半を占めることから、「専門力」「判断力」「技術力」「実践力」は3年次以降の専門科目の学修によって到達レベルの上昇が期待できる。

なお、本調査の対象となった学生は、新カリキュラムが開始された初年度の入学生であるため、前年との比較は困難であり、次年度以降の結果を比較することで新カリキュラムの評価に繋げることが可能と考える。

また、CPの評価方法として新カリキュラムでは、「2年次までに配当された全ての必修科目を修得しなければ、3年前期の配当科目を履修することができない」としている。この規定に到達できなかった学生は9名であった。

4. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。	
学修指針	長所・特色
なし	
なし	

5. 今後の課題（問題点）

教育目的を実現する上での課題、学修指針に関する問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。なお、「学修到達度の確認」の実施及び運用方法についてのご意見は、「学修指針欄」に「実施及び運用方法について」と記載の上、記述してください。	
学修指針	課題・問題点
実施及び運用方法について	3年次の学修へ進むための条件としている「2年次までに配当された全ての必修科目の修得」を達成できなかった学生が予想外に多く発生している。必修科目を配当学年で確実に単位修得することの重要性が充分伝えられていない可能性がある。

6. 課題・問題点に対する改善策

「5. 今後の課題（問題点）」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画（既に実施している場合はその進捗状況も含めて）を記述してください。	
学修指針	改善策
実施及び運用方法について	CPについて、入学時オリエンテーションおよび2年次オリエンテーションで伝えているが、学修の順序性から必修科目を配当学年で確実に学修することの重要性を様々な場面でより丁寧に説明する。

2023 年度 駒沢女子大学

「学修到達度の確認」実施報告書

2 年終了時確認報告書

2024 年 9 月 12 日

教育指針に関する検討委員会